

研究計画書（継続）

注：研究課題が複数の場合、表紙は1枚でも、ここからのページはそれぞれの課題毎に作成のこと。

研究課題	本学における望ましい教職課程カリキュラムの在り方に関する研究 松本裕司 藤井義久
研究期間	平成20年度 ～ 平成21年度（2年間） ※ 平成21年度2年目
研究の目的 <p>工業化社会から知識基盤社会へ、国際的に質の高い教育が求められている今日、ますます教員の質の向上が求められる社会になってきた。文科省では、教員の質の向上を図るために、教職大学院の設置、教員免許の更新制、大学における教職カリキュラムの改変など、様々な取り組みを現在行っているところではあるが、そのような取り組みが果たして真に教員の質の向上に貢献するかどうかは定かではない。恐らく我が国における教員の質の向上に係わる取り組みの成果は、ある程度の期間が経たないと現れないであろう。従って、現在、教員養成に対して先進的な取り組みを行っている国内はもとより諸外国の教員養成制度の現状と問題点、効果などについて分析しておくことは、これからの教職課程カリキュラムの在り方について検討していく上で、極めて重要であると考えられる。しかしながら、現在まで、国内及び諸外国の優れた教員養成制度の現状に関する情報は、これまで断片的で極めて乏しかったといわざるをえない。また、そのような国を超えた教員養成制度の比較研究も、今まであまり行われてこなかった。そこで、本研究においては、国内他大学はもとより諸外国の優れた教職課程カリキュラムの調査、分析を通して、新設科目導入に伴う教職課程カリキュラムの内容や課題、問題点などについて検証し、地域や本学の現状をふまえた望ましい教職課程カリキュラムの在り方を検討することが本研究の主たる目的であった。</p> <p>その目的を達成するために、平成20年度においては、国内および諸外国の優れた教職課程カリキュラムの基礎的調査および検討をおこなった。本年度はその成果をさらに発展させ、昨年度調査が及ばなかった新教職課程カリキュラムの調査、分析をおこなうとともに、地域や本学の現状をふまえた望ましい教職課程カリキュラムの在り方を企画、立案、試行し、その教育的効果分析を踏まえてさらに内容、方法、評価の改善を図り、平成22年度新教職課程カリキュラム導入に向けて、真に教員の質の向上に貢献する本学教職課程カリキュラムを構築することを平成21年度の目的とする。</p>	

研究の計画

①研究の進捗状況

ア. 国内他大学における新教職課程カリキュラムの現状と課題分析

教員養成学部を持つ私立大学の教職課程カリキュラムの検討を行った。

イ. 地域の実態や本学教職課程カリキュラムの調査、分析

岩手県の義務制諸学校および高等学校における望ましい教員像の調査、収集を行った。

ウ. 先導的に試行されている「教職実践演習」の調査、分析

都留文科大学において、「教職実践演習」の方法や課題等について面接調査を行った。また、それ以外の大学における「教職実践演習」の資料収集を行った。

エ. 諸外国の教職課程カリキュラムの調査、分析

王立デンマーク教育大学教育社会学部長 Jensen, N.R. 教授及び同大学教職課程担当スタッフと面談し、デンマークにおける教員養成制度の現状と課題について面接調査を行うとともに、今後の教員養成制度のあるべき姿について意見交換を行った。また、その他の北欧諸国（フィンランド、スウェーデン等）の教員養成制度の現状と課題については資料収集を行った。

オ. 本学教職課程カリキュラムの調査、分析

本学教職課程履修者及び教育実習協力校担当者を対象にして、本学教職課程カリキュラムに関する要望について尋ねたところ、教職科目の配当年次、教員採用試験対策の充実、教育実習時期の見直し等、多くの要望が寄せられた。

②平成21年度以降の研究計画

ア. 国内他大学における新教職課程カリキュラムの現状と課題分析

本年度は「教職実践演習」導入にともない教職課程カリキュラムの検討が各大学でおこなわれることが予測されるため、あらたな現地調査、資料調査をおこない、新教職課程カリキュラムの現状と課題を分析し、本学として望ましい教職課程カリキュラムのあり方を考察する。

イ. 本学における教員養成の位置づけおよび教員養成像の検討

新教職課程カリキュラムの検討は、本学が課程認定大学として大学の教育目標やあり方に教員養成をどのように位置づけるかということと密接に結びついている。本年度もひきつづき調査、資料収集をおこない、本学が養成をめざす教員養成像を検討したい。また、大学が養成をめざす教員像は、小学校、中学校、高等学校の教育現場がどのような教師像をめざしているかということと直接的な関わりがある。この点で、本年度は対象を岩手県外に拡大し検証、分析を試みる。

ウ. 諸外国の教職課程カリキュラムの調査、検討

文献調査などにより、諸外国の教職課程カリキュラムの現状と課題について検討する。

エ. 「教職実践演習」の試行及びその効果分析

本学の「教育実習Ⅰ」において「教職実践演習」の一部の内容について試行することにより、本学学生における教育的効果について分析することにより、本学学生にとって望ましい「教職実践演習」の在り方について検討する。

オ. 「教職実践演習」の評価の在り方に関する検討

診断的評価、形成的評価、総括的評価の観点から、「教職実践演習」の評価の在り方を検討する。

最終的には、以上の調査、分析結果に基づき、教員の質の向上を目指した新教職課程カリキュラム（平成22年度導入予定）の内容及び評価の具現化を図りたいと考えている。